

全国青年会議は、地域の建設産業を取り巻く中長期的な課題を解決するため、発注機関と連携しながら、建設青年人ならではの行動力を活かした主体的な取り組みを実施・継続することにより、地域と国土を守り、社会の繁栄に貢献する。

平成27年12月

設立経緯

平成9年12月、建設省(現 国土交通省)の各地方建設局(現 地方整備局)を単位ブロックとして、青年経営者の連合組織として発足しました。全国規模の交流の場として、「建設青年懇談会・全国交流会」の名称でスタートし、平成12年9月に現在の「全国青年会議」と名称変更しました。

設立時の趣意書

我が国の住宅・社会資本の整備水準は、欧米諸国と比較して未だ立ち遅れており、豊かさが実感できる安全でゆとりと潤いのある生活を実現するためには、人口構成比が少しでも若く、貯蓄率が高いうちに積極的に整備を推進することが必要である。

また、我が国は水害、土砂災害、震災等に対して、厳しい自然条件、社会条件があり、それぞれ克服し、安全で安心できる国民生活の実現が求められている。さらに、我が国は国際化・産業の空洞化が進むなかで、経済構造改革に必要な住宅・資本整備の推進、高コスト構造の是正、国際的に魅力ある事業環境の創出を図ることが重要な課題となっている。

このような状況のもとで、これら社会資本整備の担い手である建設業の果たす役割は大きいものがある。しかし、建設業界を取り巻く環境は、かつてないほどの厳しいものになっており、長引く不況、巨額債務、公共事業の削減、また、建設業界の不祥事など多様かつ多くの問題を抱えている。

そこで、建設事業の抱える課題を一緒に考え、21世紀に向けての建設事業の発展寄与し、地域の活性化を図るために、我々全国の建設業の経営に参画する青年たちは、ここに「建設青年懇親会全国交流会(仮)」を設立しようとするものである。

平成9年12月

主管

北海道建青会

全国9ブロック

北海道建青会 / 東北建設業青年会 / 関東建設青年会議

中部建設青年会議 / 北陸建設青年会議 / 近畿建設青年会議

中国地方建設青年交流会 / 四国建設青年会議 / 九州建設青年会議

全国建設青年会議

第26回

全国大会

#進化と共創

～「やりがい」「楽しさ」「喜び」を実感できる建設産業に～

日時 令和3年12月3日(金)

場所 明治記念館 東京都港区元赤坂2丁目2-23
03-3403-1171



全国建設青年会議
ZENKOKU KENSETSU SEINEN KAIGI

Official Website
<https://www.zenken-taikai.com/>



大会趣旨

#進化と共創

～「やりがい」「楽しさ」「喜び」を実感できる建設産業に～

少子高齢化と人口減少、そして大規模な気候変動に伴う自然災害の激甚化など、地域を取り巻く環境は厳しさを増している。地域が活気にあふれ社会経済が発展していくために、基幹産業である建設産業の役割が不可欠だ。建設産業の喫緊の課題である担い手確保は、建設産業の役割を考える時、一産業だけの問題ではなく、地域が存続していくための最重要の課題の一つでもあると考える。

担い手確保のために、建設産業は行政機関などと連携して、様々な取り組みを進めてきた。建設産業の魅力を発信することで、若手の人材確保とともに、働き方改革を着実に進め、生産性の向上と「働き続けたい会社」を目指してきた。

一方で、SNSを含め、様々な媒体を使って建設産業をPRする際、効果的な発信の「やり方」に重点が置かれ、建設産業そのものの「やりがい」や「楽しさ」「喜び」などを的確に伝える取り組みがやや足りなかったのでは、とも考えている。建設産業を効果的に伝える「やり方」に加えて、「あり方」という根幹的な議論をもっと掘り下げるべき、と考えている。

今回、我々北海道建青会では、建設産業のあり方と担い手確保を的確に議論し、今後の方向性を検討するための基礎データとして、北海道十勝地域の高校を対象に生徒と保護者、教師に対して、述べ6,000人を超えるアンケートを実施し、建設産業に対する認識や期待などをとりまとめた。

今回のアンケートに関しては、他地域でも活用を期待するとともに、若者と保護者らの建設産業に対する認識や期待を明確な形で数値化することにより、現実を踏まえた議論と建設産業の今後の「あり方」を考えていく貴重な基礎データになると考えている。

第26回全国大会では、アンケート結果を踏まえながら、さまざまな角度から議論を重ね、「働き続けたい」建設産業となるための「あり方」を考える貴重な契機となることを期待している。

また、新型コロナウイルス感染症が拡大し、住民の暮らしと地域経済が大きなダメージを受けている。一刻も早い終息を心から祈念するとともに、アフターコロナと新しい日常の構築に向け、地域の基幹産業として、役割の重要性を認識し、全国の仲間とともに取り組んでいきたい。

スケジュール

- 14:00 開会
- 14:02 主催者挨拶 大会会長 萩原 一宏
- 14:09 来賓挨拶 国土交通大臣 斉藤 鉄夫氏
- 14:19 来賓紹介および祝電披露
- 14:24 大会趣旨説明(実行委員長)
- 14:30 特別講演(30分) 国土交通省 技監 吉岡 幹夫氏
- 『「やりがい」「楽しさ」「喜び」を実感できる建設産業に向けた国土交通省の取組』
- 15:00 休憩(10分)
- 15:10 基調講演(30分) 一般社団法人建設ディレクター協会 理事長 新井 恭子氏
- 『建設産業のあり方がやりがいを創る ー働き続けたいくなる会社に必要なものー』
- 15:40 休憩(5分)
- 15:45 基調講演(30分) 一般社団法人全日本建設技術協会 会長 大石 久和氏
- 『世界の潮流と日本の救世主』
- 16:15 休憩(10分)
- 16:25 北海道十勝地域における建設業イメージアップへの取組(20分)
- 16:45 パネルディスカッション(70分) コーディネーター 荒木コンサルティングオフィス 代表 荒木 正芳氏
- 『今改めて考える、建設業の魅力とは』
- パネリスト 一般社団法人全日本建設技術協会 会長 大石 久和氏
一般社団法人建設ディレクター協会 理事長 新井 恭子氏
全国建設青年会議第26回全国大会 大会会長 萩原 一宏
- 17:55 大会宣言 大会実行委員長 藤原 将智
- 18:00 閉会

特別講演

講演テーマ 『「やりがい」「楽しさ」「喜び」を実感できる
建設産業に向けた国土交通省の取組』



講師 国土交通省 技監
よしおか みきお
吉岡 幹夫氏

- 1986年 東京大学工学部都市工学科卒業
- 1986年 建設省に採用(中国地建岡山国道工事事務所調査設計課)
- 2003年 関東地整相武国道事務所長
- 2005年 道路局企画課企画専門官
- 2008年 道路局企画課技術企画官
- 2009年 道路局企画課道路計画調整官
- 2009年 道路局企画課道路事業調整官
- 2011年 道路局企画課道路経済調査室長
- 2014年 道路局高速道路課長
- 2016年 道路局企画課長
- 2018年 北陸地方整備局長
- 2020年 道路局長
- 2021年 技監(現職)

■講演内容

気候変動に伴い、水害や豪雨災害が激化する一方、数時間で交通に支障を来すような突発的な豪雪災害も発生しています。今後発生が想定される巨大地震を含め、国民の生命や財産、生活を守る社会インフラと、それに携わる建設業の役割はますます大きくなっています。

建設産業は、「地域の守り手」であり、国土を支えるインフラの機能維持・向上を通して、人々の暮らしや経済を支えています。国土を支えるインフラは国民の貴重な資産であり、より良い状態で次の世代に引き継ぐ必要があります。

これからのインフラには、防災・減災、安全などの「Safe」、賢く利用する「Smart」、持続可能な「Sustainable」の3つのS(エス)が重要です。

また、建設産業を「やりがい」「楽しさ」「喜び」を実感できる産業にしていくためには、「DX(デジタルトランスフォーメーション)」や「働き方改革」に取り組み、新3K(「給与が高い」「休暇がとれる」「希望が持てる」)を成し遂げる必要があります。

講演では、これらの背景を踏まえ、3つのSや新3Kの取組を含む「今後のインフラに求められること」や、「災害の激甚化・頻発化を踏まえた5か年加速化対策の推進の必要性」などについて紹介いたします。

基調講演

講演テーマ 『建設産業のあり方がやりがいを創る
一働き続けたいくなる会社に必要なもの一』



講師
一般社団法人建設ディレクター協会 理事長
あらい きょうこ
新井 恭子氏

- 略歴
- 1996年 京都サンダー株式会社 入社
- 2012年 京都サンダー株式会社 代表取締役
- 2012年 一般財団法人地球システム総合研究所 京都地盤研究会 幹事
- 2014年 建設未来京都フォーラム 主宰
- 2017年 一般社団法人建設ディレクター協会 理事長
- 2019年 京都府「女性起業家賞最優秀知事賞」受賞
- 2019年 公益社団法人土木学会教育企画人材育成委員会 高校小委員会 委員

■講演内容

建設業では、人材不足の人的課題、生産性向上のための技術的課題、広報イメージアップの必要性など多くの課題があり、これらを取りまく環境の変化に、いかに素早く対応できる組織であるかがDX時代の要だと考えた時、今こそ従来の働き方や価値観を変えていく時期なのではないでしょうか。私たちは20年以上にわたり建設業をITと教育でサポートしてきました。現場事務所を訪ね歩く中、技術者が時間外労働せざるを得ない原因の一つに、書類の煩雑さと、オフィスとのコミュニケーション不足からくる職域分断がありました。現場とオフィスが互いに業務を明確に共有することで適切に分業でき、技術者は重要な業務に集中できる環境が整います。そこで私たちは「個」から「チーム」で働く組織づくりとして、人材マネジメントの観点から切り込んだ「建設ディレクター」という人材を配置し、環境を整える業務プロセス改善を提案しています。今いる担い手を活かし、新しい雇用に繋げていく。担い手も女性、ベテランや障害者など多様な人材の活躍フィールドが存在できる産業、それが建設業の魅力です。長期的に建設業に一人でも多くの人材の流入と定着が進むことを強く願っています。

講演テーマ 『世界の潮流と日本の救世主』



講師
一般社団法人全日本建設技術協会 会長
おおし ひさかず
大石 久和氏

- 略歴
- 1970年4月 建設省入省
- 1993年4月 国土庁計画・調整局総合交通課 課長
- 1995年6月 建設省道路局道路環境課 課長
- 1996年7月 建設省大臣官房 技術審議官
- 1999年7月 建設省道路局長
- 2002年7月 国土交通省技監
- 2004年7月 財団法人 国土技術研究センター 理事長
- 2013年6月 一般財団法人 国土技術研究センター 国土政策研究所 所長
- 2016年6月 一般社団法人 全日本建設技術協会 会長
- 2017年6月 公益財団法人 土木学会 会長
(~平成30年6月)
- 2019年7月 国土学総合研究所長 株式会社オリエンタル コンサルタンツ 最高顧問

■講演内容

コロナ禍による経済ショックを受けて、先進各国は経済の再生のための政策を繰り出している。アメリカでは高速道路や港湾などの交通インフラの大改修に着手することになり、それは1950年代の州間高速道路建設以来の投資規模になると言われている。EUから離脱したイギリスも国土の一体化と地方の活性化のためのインフラ投資を大規模に行い、EU依存から独立していける環境を整えようとしている。ところが、財政再建至上主義に冒されたわが国ではこうした議論はまったくなされないままとなっており、社会の基礎構造であるインフラの整備水準が先進各国との格差を広げている。それが国民の貧困化を進め、経済の成長を阻止して税収が伸びない国としているのだから、この救世主は積極的な財政拡大によるインフラ投資しかないのである。全国建設青年会議は、このことを十分に理解して広く発信し、次世代のために貢献する使命を負っているとの自覚を持ちたいのである。

パネルディスカッション

テーマ 『今改めて考える、建設業の魅力とは』



コーディネーター

荒木コンサルティングオフィス 代表
あらき まさよし
荒木 正芳氏

■略歴

1980年 明治大学政治経済学部 卒業
1980年 株式会社北海道建設新聞社 入社
2014年 同社 常務取締役(経営管理統括)
2015年 同社 代表取締役社長
2019年 株式会社 建新総合研究所 代表取締役社長
2020年 荒木コンサルティングオフィス 代表

パネリスト

一般社団法人建設ディレクター協会 理事長

あらい きょうこ
新井 恭子氏

※略歴は4ページをご覧ください



一般社団法人全日本建設技術協会 会長

おおいし ひさかず
大石 久和氏

※略歴は4ページをご覧ください



萩原建設工業株式会社 専務取締役

はぎわら かずひろ
萩原 一宏

■略歴

2008年 明治大学大学院 卒業
2008年 株式会社船井総合研究所 入社
2011年 西松建設株式会社 入社
2013年 萩原建設工業株式会社 入社



■ディスカッション内容

少子高齢化と人口減少時代の進展に伴い、建設産業は深刻な人手不足に直面しています。また、新型コロナウイルスの感染拡大の影響で地域経済が大きなダメージを受ける中、地域建設業は引き続き、「地域防災の担い手」、「社会インフラの守り手」、「地場経済活性化と雇用の支え手」として重要な役割を担っており、若者の確保・定着対策は喫緊の課題となっています。

今回のパネルディスカッションは、本大会のテーマである「進化と共創～やりがい、楽しさ、喜びを実感できる建設産業に～」を踏まえ、「今、あらためて考える建設業の魅力とは」と題して、建設業の魅力ややりがいなどについて意見を交わして、これからの建設業のあるべき姿を議論していきたいと思っております。

パネリストの皆様から貴重なご提言をいただき、今大会及びパネルディスカッションが契機となり、建設産業が地域社会の期待に応えた、重要な基幹産業としてさらに発展していくため、建設業の魅力をしっかり若者たちに情報発信していくことの大切さをお伝えできればと思っております。

全国建設青年会議第26回全国大会 大会宣言

#進化と共創

～「やりがい」「楽しさ」「喜び」を実感できる建設産業に～

地域とともに歩む我々全国建設青年会議の会員を取り巻く環境は、新型コロナ危機と自然災害という異なる複数の事態への対応が必要となっている。

このような国土で「安全」「安心」「健康」で快適な暮らしを守るためには、防災・減災対策を一層推進するとともに、計画的な社会資本整備を進めることが何よりも必要である。

また、建設業は中央集約型他産業とは異なり、地方での雇用を創出し、地域経済を支える産業として大切な社会的役割を果たしている。

時代の変革、新型コロナウイルスによる影響が本格的に押し寄せる中、我々会員一同は、1997年に発足した全国建設青年会議の発展に寄与するとともに、

地域の活性化に貢献するとの趣旨を今一度再確認し、
地域の基幹産業としての自覚を持ち、
地域の潤いのあるまちづくりに、
より一層貢献することに全力を挙げて取り組む。

こうした役割を果たす中で、建設業が新3K(給与・休暇・希望)を実現する夢と魅力あふれる産業となるために、i-Construction や働き方改革などの取組を積極的に推し進め、現場の生産性向上と人材の確保・育成を実現することを目指して、次の通り宣言する。

- 一、近年、激甚化・頻発化する自然災害から地域社会の安全、安心の確保を担う地域の守り手としての役割を果たし続けます
- 一、新型コロナ危機で疲弊する地域経済の立て直しに向け、基幹産業として地域の雇用を支えると同時に、本業の経験を活かし、地方創生にも貢献します
- 一、建設産業の「やりがい」「楽しさ」「喜び」を実感できる効果的なPR、建設業の「あり方」についての議論をさらに深めていきます

令和3年12月3日
全国建設青年会議第26回全国大会